

インド下院総選挙の途中経過と市場動向について

情報提供資料 2019年5月10日

インドでは5年に1度、下院総選挙が行われます。投票は4月11日から行われており、5月19日までの間に7回に分けて実施され、5月23日に一斉開票される予定です。出口調査の結果は19日の最後の投票が終わった時点で発表される見込みです。選挙の途中経過、マーケットへの影響と今後の見通しについてご説明します。

▶ インド下院総選挙、第5回投票が終了

- インドでは5年に1度行われる下院総選挙（総議席数：543議席、任期：5年）が4月11日から実施されています。インドは国土面積が日本の約9倍と、その巨大な国土が舞台となるため、今回の下院総選挙は4月11日から5月19日の間で7回に分けて投票が行われ、開票は5月23日に予定されています。
- 4月23日にはその中でも最大規模となる第3回の投票が実施され、モディ現首相が州首相を務めた西部グジャラート州や南部ケララ州など14の州・連邦直轄領で投票が行われましたが、投票率は68.4%と報じられています。
- 5月6日までに第5回投票が終了しており、残りは5月12日の第6回、5月19日の第7回となっています。
- 出口調査の結果については、19日の最後の投票が終わった時点で発表される見込みです。
- また、政府は選挙日程が発表された後は、原則として選挙結果に影響を及ぼすような政策を公表することはできないことになっています。
- 今回の選挙では、前回選挙（2014年）で30年ぶりに単独で過半数議席を獲得したインド人民党（BJP）が与党の立場を維持し、モディ現首相が政権を維持できるかが注目されています。

2019年インド下院総選挙の日程

投票日程	対象	議席数
第1回 4月11日	20州	91
第2回 4月18日	13州	97
第3回 4月23日	14州	115
第4回 4月29日	9州	71
第5回 5月6日	7州	51
第6回 5月12日	7州	59
第7回 5月19日	8州	59
開票	5月23日	

（注）第2回の一部は、積み残し分として第3回で実施
出所：各種報道に基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成



インド人民党の集会所
（写真：弊社社員撮影（ムンバイ））



インド人民党への投票を呼び掛ける看板
（写真：弊社社員撮影（ムンバイ））



オートリクシャーの後ろには国民会議派の公約をアピールする広告
（写真：弊社社員撮影（ジャイプール））

英国ブルーデンシャル社はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社とは関係がありません。

※当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。※当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。※当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。※当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。※当社による事前の書面による同意無く、本資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商） 第379号／加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

190510 (01)

投票直前の世論調査結果

- 今回の選挙では543議席が争われるため、過半数には272議席以上を獲得する必要があります。これまでの世論調査では、モディ現首相が率いるインド人民党（BJP）を主体とする与党連合の国民民主同盟（NDA）が優位ではありますが過半数である272議席には達しない可能性がある、とみられていました。
- しかし、4月に実施された5つの世論調査では、NDAが平均値で280議席を獲得する一方で、ラフル・ガンディー総裁が率いる国民会議派（INC）を中心とする野党連合である統一進歩同盟（UPA）は137議席、その他が126議席となっており、NDAが優勢となっています。
- 選挙を巡って起こり得るシナリオとして、以下の4つが市場では想定されています。

想定される4つのシナリオ

＜ モディ首相続投 ＞	
シナリオ①	モディ首相率いるインド人民党（BJP）が第一党となるも単独過半数に至らず、連立政権を樹立
シナリオ②	BJPが過半数の272以上の議席を獲得し、単独政権を確立
＜ 野党政権奪取 ＞	
シナリオ③	インド最大野党の国民会議派（INC）による連立政権。ラフル・ガンジー氏が首相に。
シナリオ④	BJPもINCも議席を伸ばせず、地域政党の寄せ集めによる第三の政権

出所：各種報道に基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成

直近の世論調査の結果（2019年4月）

調査機関名	国民民主同盟 (NDA)	統一進歩同盟 (UPA)	その他
Times Now-VMR	279	149	115
CSDS-Lokniti	273	125	145
India TV-CNX	275	147	121
Republic - Jan Ki Baat	310	122	111
TV9-Cvoter	261	143	139
平均値	280	137	126

出所：各種報道に基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成



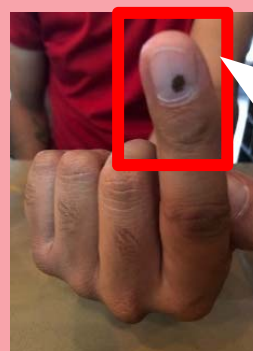
投票所で並ぶ人々



投票日の投票所周辺の様子

（写真：上下共に弊社グループ会社社員撮影（ムンバイ））

投票後の指のインク？



投票後には二重投票を防ぐため、指に数週間落ちないインクが投票済の印として付けられます。

（写真：弊社社員撮影（デリー））

▶ マーケットへの影響と今後の見通し

過去3回の選挙前後の株式指数は全てプラス

- 下院総選挙のインド株式市場への影響をみると、直近3回の実施年は、政権交代の有無を問わず、選挙前後の6か月間はいずれもプラスリターンという結果になっています。
- 株式市場ではBJP優勢が一定程度織り込まれているものと見られますが、一方で投資家による選挙結果待ちの待機資金もあり選挙後に戻ってくる可能性もあると考えられます。

選挙前後の6か月間のSENSEX指数は全てプラス

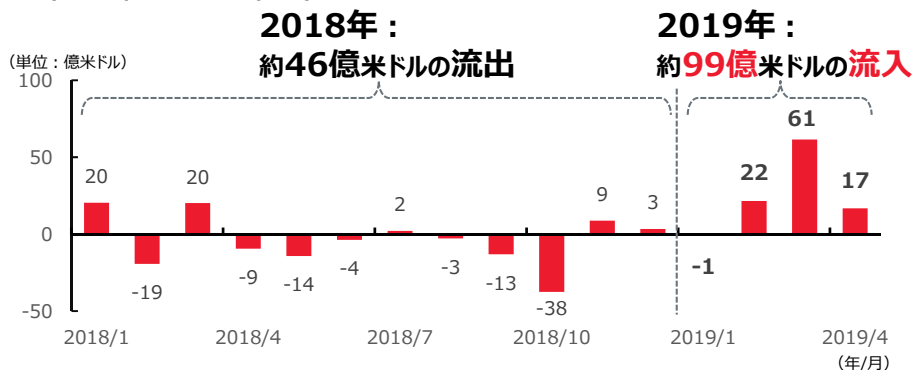
	政権交代	選挙前 (10月末～4月末)	選挙後 (5月末～11月末)
2004年	BJP→INC	15.2%	31.0%
2009年	INC	16.5%	15.7%
2014年	INC→BJP	5.9%	18.5%

出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

外国人投資家の動向

- 外国人投資家からのインド株式市場への資金流出入の推移をみると、2018年は年間約46億米ドルの流出でした。ところが2019年は投資家の世界的リスク選好の後押しを受け、2月以降は流入となっており、年初来累計で約99億米ドルの流入を記録しています。

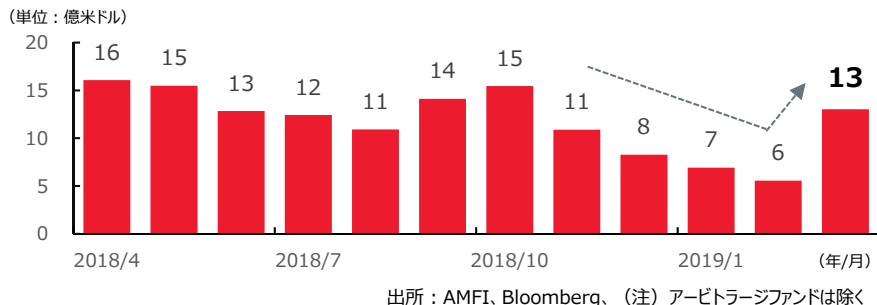
外国人投資家からのインド株式市場への資金純流出入状況 (2018年1月～2019年4月)



国内投資家の動向

- インド国内の投資家マインドは楽観的であり、国内投資家の株式投資信託への資金流入は2018年11月より減少傾向が続いていましたが、2019年3月は大幅に増加し、2018年11月～2019年3月の5か月間でみると2019年3月は最大の資金流入を記録しています。

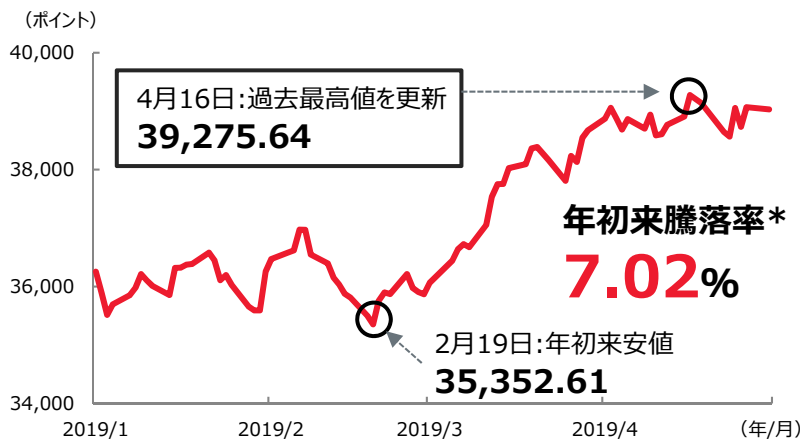
国内投資家からの株式投資信託への資金純流出入状況 (2018年4月～2019年3月)



株式市場は過去最高値を更新

- インド株式市場は、代表的な株価指数であるSENSEX指数が4月16日に過去最高値を更新するなど、堅調に推移しています。中央銀行であるインド準備銀行（RBI）は2会合連続で政策金利を引き下げるなど、こうした点も株式市場は好感しています。
- 約6週間にわたりインド各地で投票が行われている今回の選挙は、5月23日に一斉開票され同日中に大勢が判明する見通しです。インドの下院総選挙には、引き続きインド国内外の投資家から大きな注目が集まるものとみられています。

SENSEX指数の推移 (2019年1月1日～2019年5月6日)



※当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。※当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。※当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。※当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。※当社による事前の書面による同意無く、本資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。